

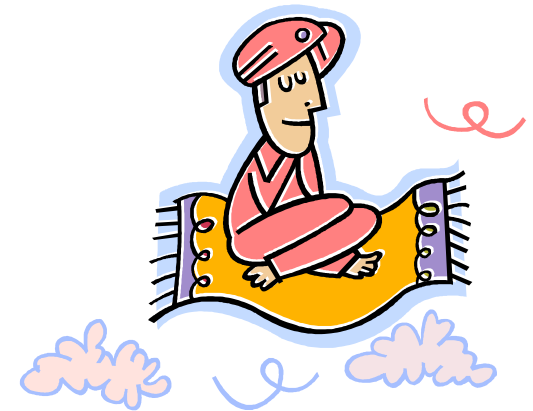
Scheduling

加工順序問題

どのような順で作れば早く終わる？

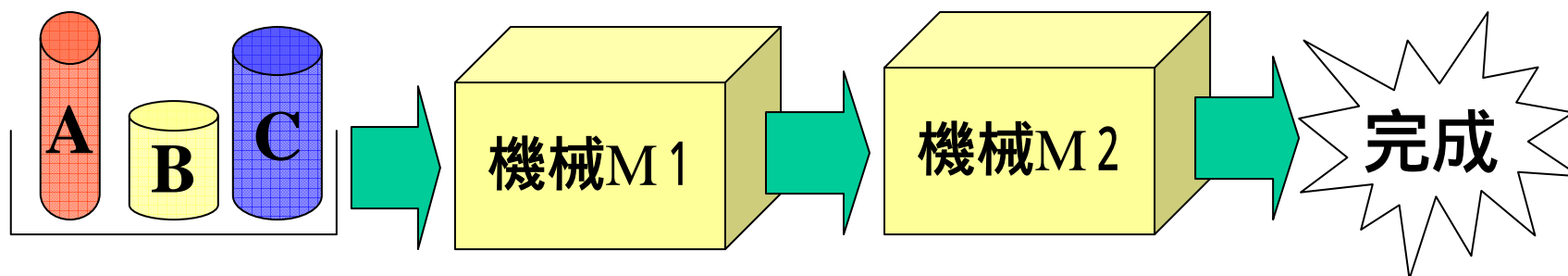
ここで学ぶこと

- 最適な状況を欲する問題の紹介
 - 材料:最適加工順序問題
- 素朴な解法 vs 工夫した解法
 - 理論的に解ける vs 実際に解く
- 特殊な問題設定 vs 汎用的な問題設定
 - 汎用的な問題は難しい



例題6-1 生産順序の効率化

先に機械M1, 次に機械M2で加工する製品が3つある



各製品の各機械での加工時間

	機械M1	機械M2
製品A	6時間	2時間
製品B	4時間	8時間
製品C	2時間	5時間

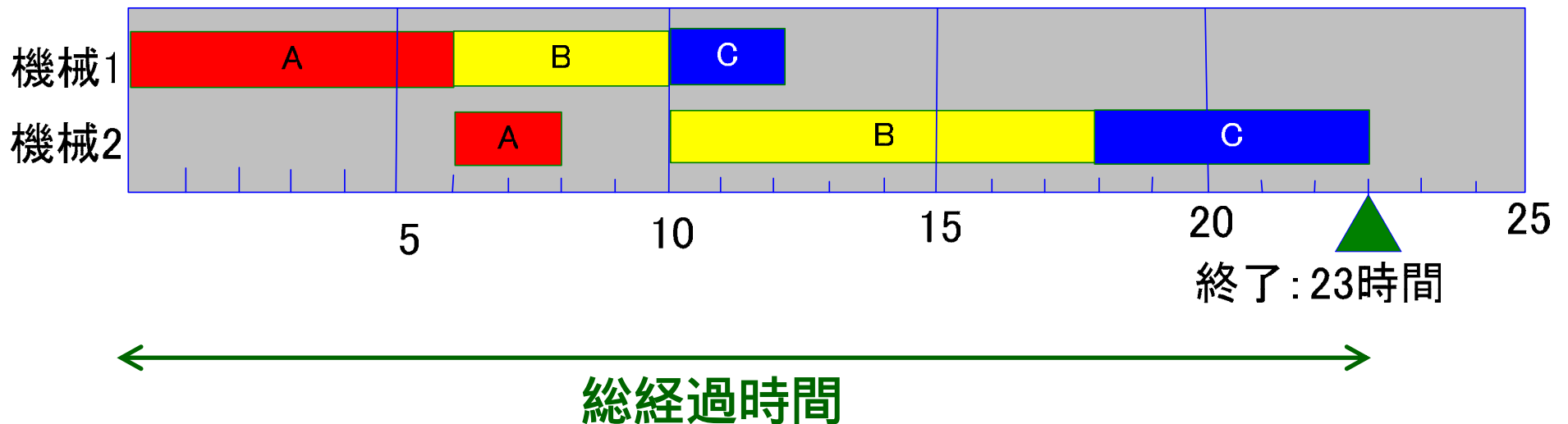
作業を早く終わりたい。
加工順序は？

加工順序問題

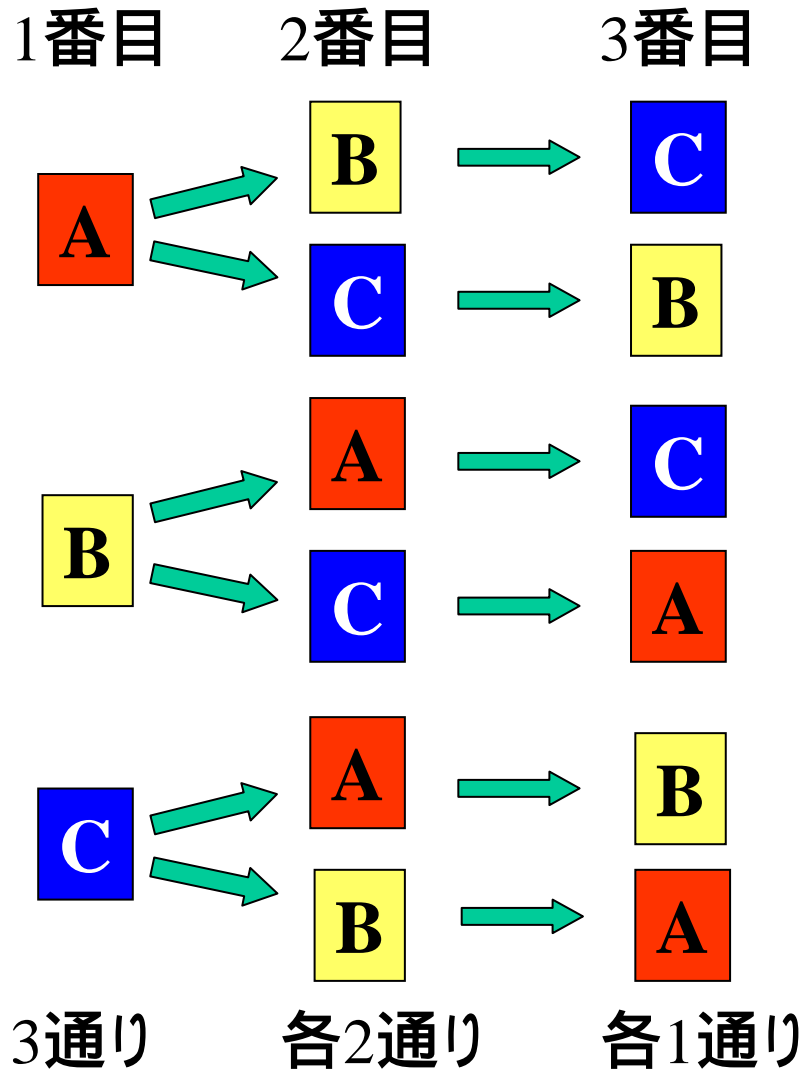


例：A B C順で加工

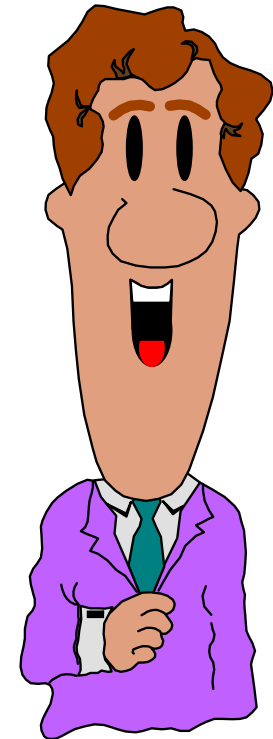
	機械M1	機械M2
製品A	6時間	2時間
製品B	4時間	8時間
製品C	2時間	5時間



考えられる加工順は？



$3 \times 2 \times 1 = 6(\text{通り})$





演習6-1

例題6において

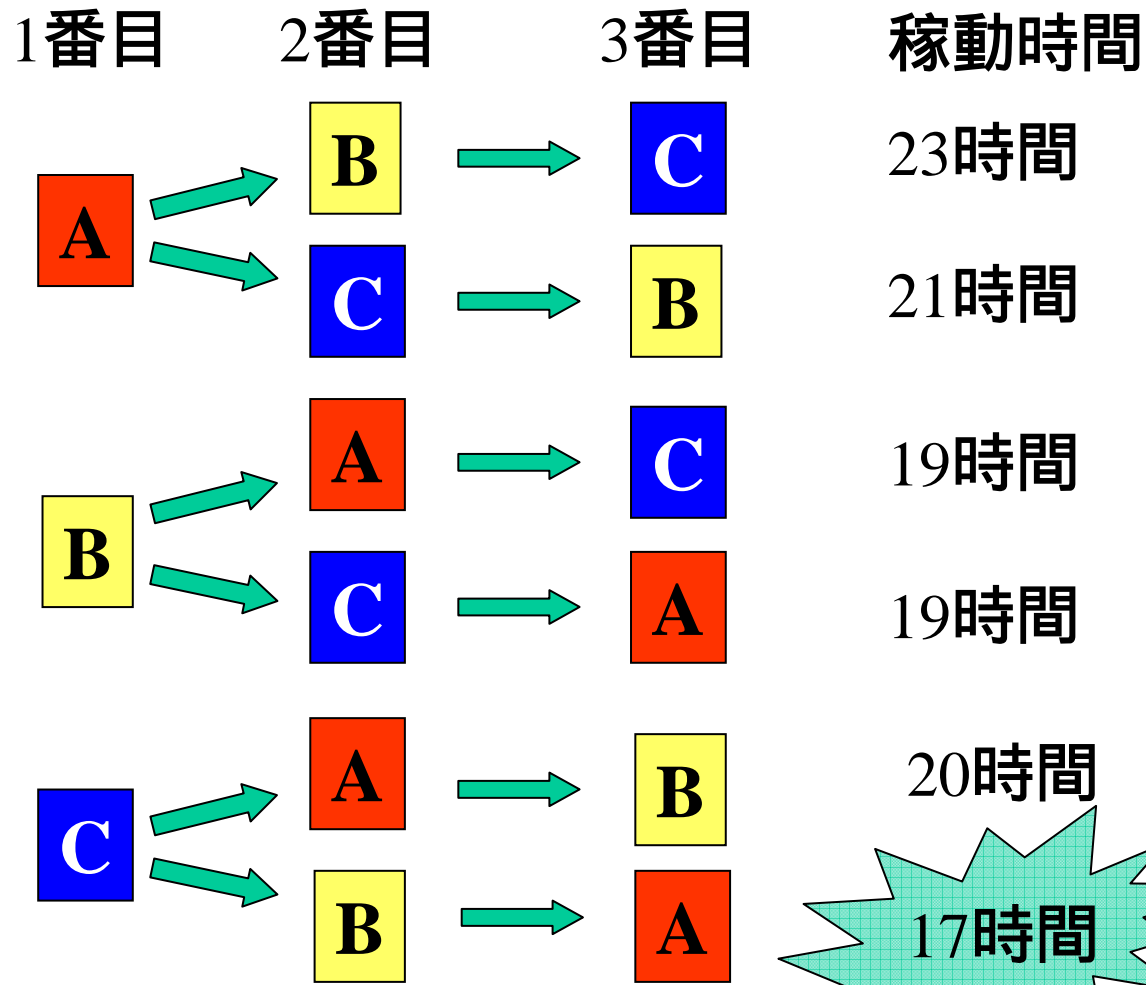
- 全加工順でのガントチャートを作成せよ
 - 各加工順での総経過時間は？
- 総経過時間最小の加工順序は？

最適加工順序



ワークシート有

最適な加工順は？



最適!
17時間

加工順序問題の素朴な解き方 (総当り法)

すべての加工順のガントチャートを作成
総経過時間を算出

ガントチャートの必要枚数

- 製品3個の時 6枚 ($=3 \times 2 \times 1$)
- 製品4個の時 24枚 ($=4 \times 3 \times 2 \times 1$)
- 製品10個の時 3,628,800枚 ($=10 \times \dots \times 1$)
- 製品20個の時 約2,400,000,000,000,000,000枚
=約240京枚



順序の総数



n個のものの並べ方は

$n \times (n - 1) \times \cdots \times 1 (=n!)$ 通り

仮定: 100万枚/秒のガントチャート作成可能

製品20個の場合の必要時間

約675,806,113時間 = 約28,158,588日

= 約77,146年

組合せ的爆発

コンピュータの限界

- 現在のコンピュータの速度 1億回演算/秒
製品100個の時 1.77×10^{132} 宇宙年
- 計算機の速さの限界 約600億回/秒
+ 並列化: 極小コンピュータを大気圏内に設置
= 1.2×10^{30} 回/秒くらい演算可能

1.61×10^{110} 宇宙年かかる



最適解を求める困難性

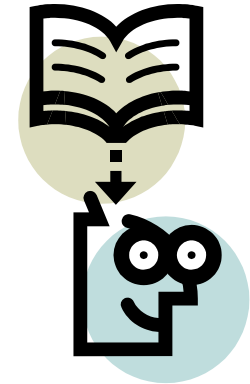
- 高速のコンピュータでも事実上不可能!!
- ITの永遠の限界
- 最適化理論がチャレンジすべき課題



× 素朴な解き方

工夫した効率よい
解法の開発が重要

工夫したいいくつかの解法



工程の機械が2台の場合:

特殊化

– ジョンソン法

- 最適性保証, 効率の良い解法

– 機械が3台である条件を満たす場合も適用可能

それ以外の場合:

– 分枝限定法(branch and bound):

- 実行可能解を数え上げる 最適加工順序を見つける
- 無用な実行可能解を探さない工夫
- 最悪の場合: 素朴な方法とほぼ同じ時間が必要.

– 近似解法: 高速だが最適性の保証はない



2機械の時 ジョンソン法

先処理機械M1,後処理機械M2

複数存在時は,
適当な順序付け

ステップ1

表中で加工時間最小の数字を見つける

ない

終了

M1側

M2側

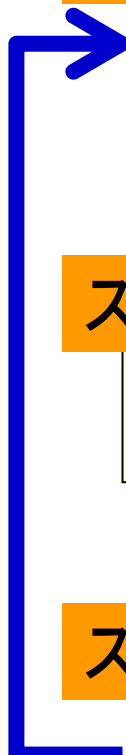
ステップ2

その作業を前に処理

その作業を後で処理

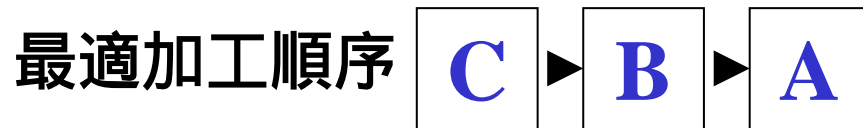
ステップ3

その作業を表から削除



例題6-1 (続) ジョンソン法の適用

	機械M1	機械M2
製品A	6時間	2時間
製品B	4時間	8時間
製品C	2時間	5時間



総経過時間は17時間

ガントチャートを描いて求める



繰り返し1回目

- ステップ1: 最短加工時間2 (M1, C)
- ステップ2: Cは加工順1番
- ステップ3: Cを表から除く

繰り返し2回目

- ステップ1: 最短加工時間2 (M2, A)
- ステップ2: Aは加工順3番
- ステップ3: Aを表から除く

繰り返し3回目

- ステップ1: 最短加工時間4 (M1, B)
 - ステップ2: Bは加工順2番
 - ステップ3: Bを表から除く
- (終了)

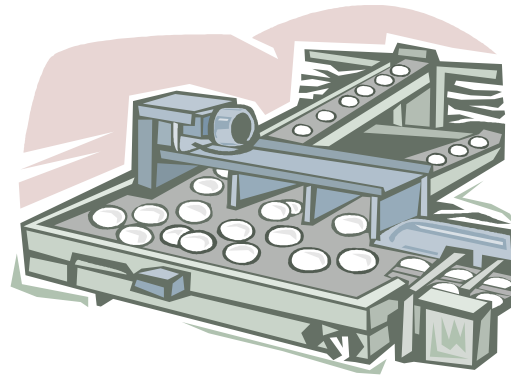
練習



各製品の加工必要時間

まず旋盤で削って穴をあけ、次に研削盤で磨いて仕上げる製品が8個ある。

最適加工順序とその総経過時間を求めよ。



製品	旋盤	研削盤
A	3	4
B	8	7
C	6	7
D	9	8
E	8	4
F	7	2
G	5	6
H	5	1

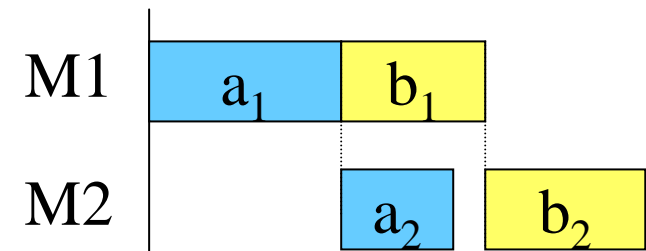
最適性の保証

ジョソソソ法は最適加工順を求めているのだろうか?

製品	M1	M2
A	a_1	a_2
B	b_1	b_2

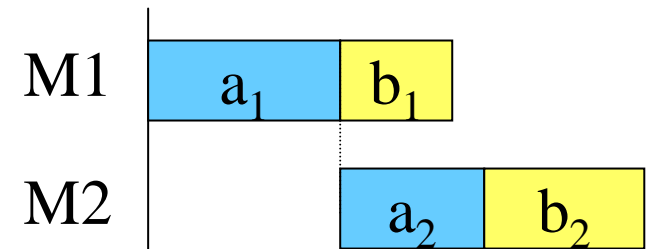
A B順の
総経過時間

$b_1 > a_2$ の時



$$a_1 + b_1 + b_2$$

$b_1 \leq a_2$ の時



$$a_1 + a_2 + b_2$$

まとめると

(A B順の総経過時間)

$$= \begin{cases} a_1 + b_1 + b_2 & (b_1 > a_2 \text{の時}) \\ a_1 + a_2 + b_2 & (b_1 \leq a_2 \text{の時}) \end{cases}$$

$$= a_1 + b_2 + \max\{b_1, a_2\}$$

最適性の保証(続)

- (A B順の総経過時間) $=a_1+b_2+\max\{a_2,b_1\}$
- (B A順の総経過時間) $=b_1+a_2+\max\{b_2,a_1\}$

A B順が良い

$$\begin{array}{cc} a_1+b_2+\max\{a_2, b_1\} & b_1+a_2+\max\{b_2, a_1\} \\ \max\{-b_1,-a_2\} & \max\{-b_2,-a_1\} \\ -\min\{b_1,a_2\} & -\min\{b_2,a_1\} \\ \min\{b_1,a_2\} & \min\{b_2,a_1\} \end{array}$$

a_1 又は b_2 が表中で最小の加工時間

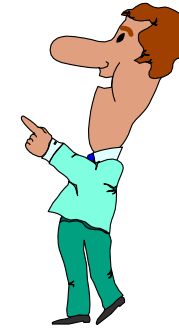


問題設定の拡張

- 2機械 n 製品の時: ジョンソン法
- 3機械 n 製品の時?
 - ジョンソン法の正当性から拡張可能?
ある条件を満たす時のみ拡張可能
条件を満たさない時の方法は未解明



機械が3台の場合



- ジョンソン法が適用できる条件:

$$\max\{M2の加工時間\} \leq \min\{M1及びM3での加工時間\}$$

- 適用方法

2台の合成機械の問題に変形しジョンソン法を適用

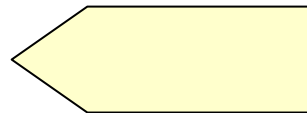
	機械	機械	機械
	M1	M2	M3
製品A	a1	a2	a3
製品B	b1	b2	b3



	機械	機械
	M1+M2	M2+M3
製品A	a1+a2	a2+a3
製品B	b1+b2	b2+b3



最適加工順序



最適加工順序を導出

演習6-2

8種類の資料(A～H)の整理・点検・製本の作業を順に行いたい。整理・点検・製本の作業は専門班(各1班)が行い、混乱を避けるため、異なる資料の作業を同時に行ってはならない。

総作業日数を最小にする作業順を求めよ。
そのときの総作業日数を求めよ。



各資料毎の作業日数

資料	整理	点検	製本
A	7	3	5
B	3	2	5
C	6	2	4
D	9	3	6
E	3	3	7
F	4	1	3
G	7	2	5
H	5	2	6

単位:日

3機械以上の場合

- 厳密に最適加工順序を求めたい時
分枝限定法(Branch and Bound)

- 加工順のパターンを枝別れしながら、結果が不利になるまで網羅的に探索する。

- 早い時間で良い加工順序を知りたい
近似解法

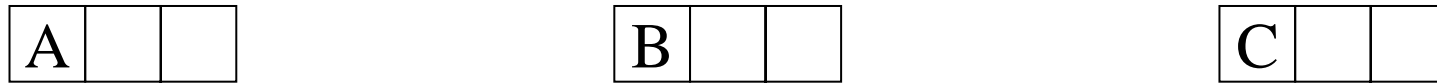
- 経験的・実験的に良い解を出すと知られている方法を用いる。(ヒューリスティクス)
- 最適性の保証は無い

詳しくは,
「最適化モデル
分析」にて

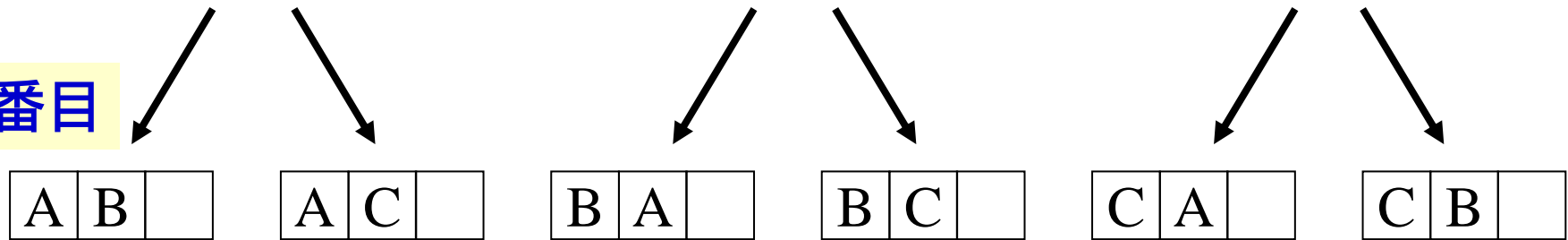


分枝限定法

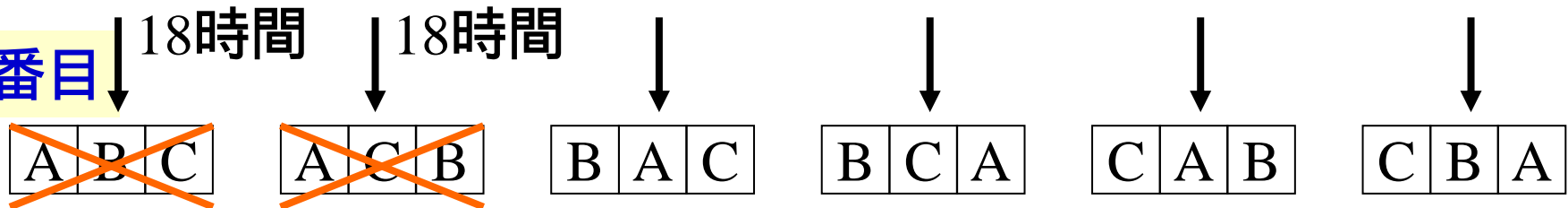
1番目



2番目



3番目



18時間 18時間

17時間

詳しくは後日の講義で

近似解法のひとつの例

- 字引式順序法

- 先機械の加工時間が短い製品を優先

	M1	M2	M3	M4
A	4	2	3	5
B	6	4	2	5
C	6	4	2	5
D	7	2	4	4
E	5	3	1	6
F	5	1	3	5

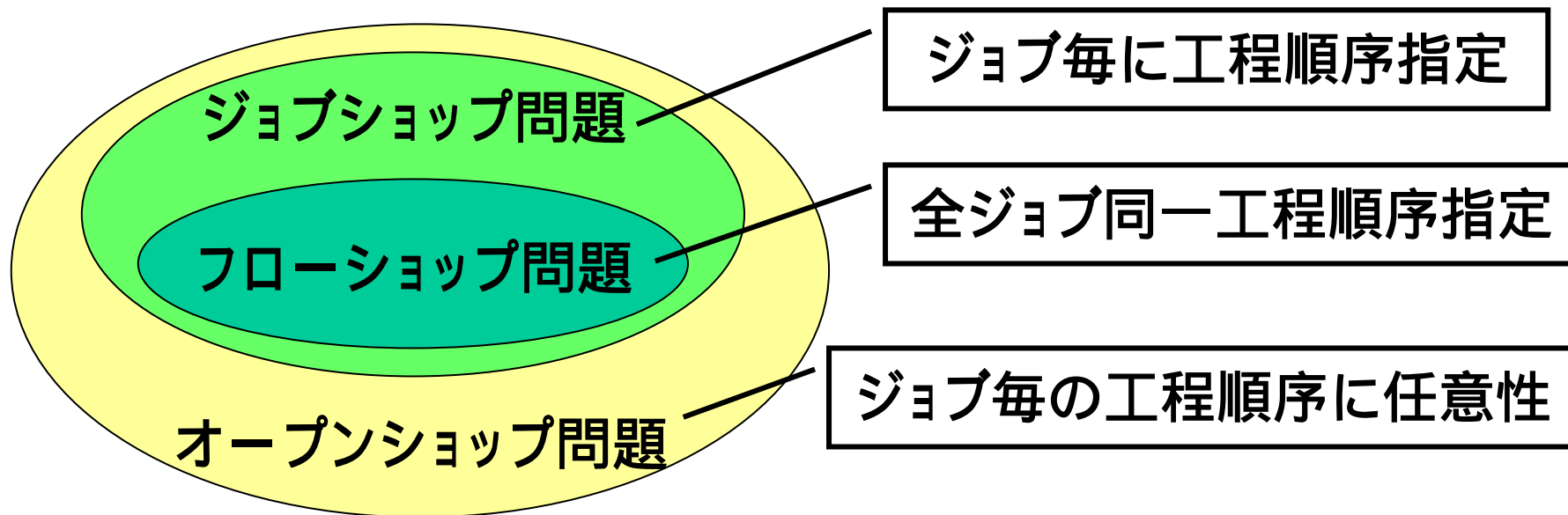
A F E B C Dがひとつの加工順として導かれる。

最適性の保証はない

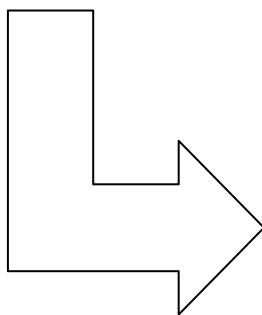
近傍解での吟味が必要

さらに現実的なモデルへ

基本的(古典的)なスケジューリング問題



より利用効果の高い問題の解決へ



- FMS スケジューリング
(flexible manufacturing system)
- 資源制約付きスケジューリング
- グループスケジューリング

等

様々な評価基準

- 終了時間の最小化

他にも

- 滞留時間和の最小化
- 最大納期遅れの最小化
- 納期遅れ和の最小化 等

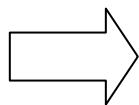
様々なスケジューリングの問題に対応するには多くの手法を身につけないといけないんだな~



様々なモデル

+

様々な評価基準

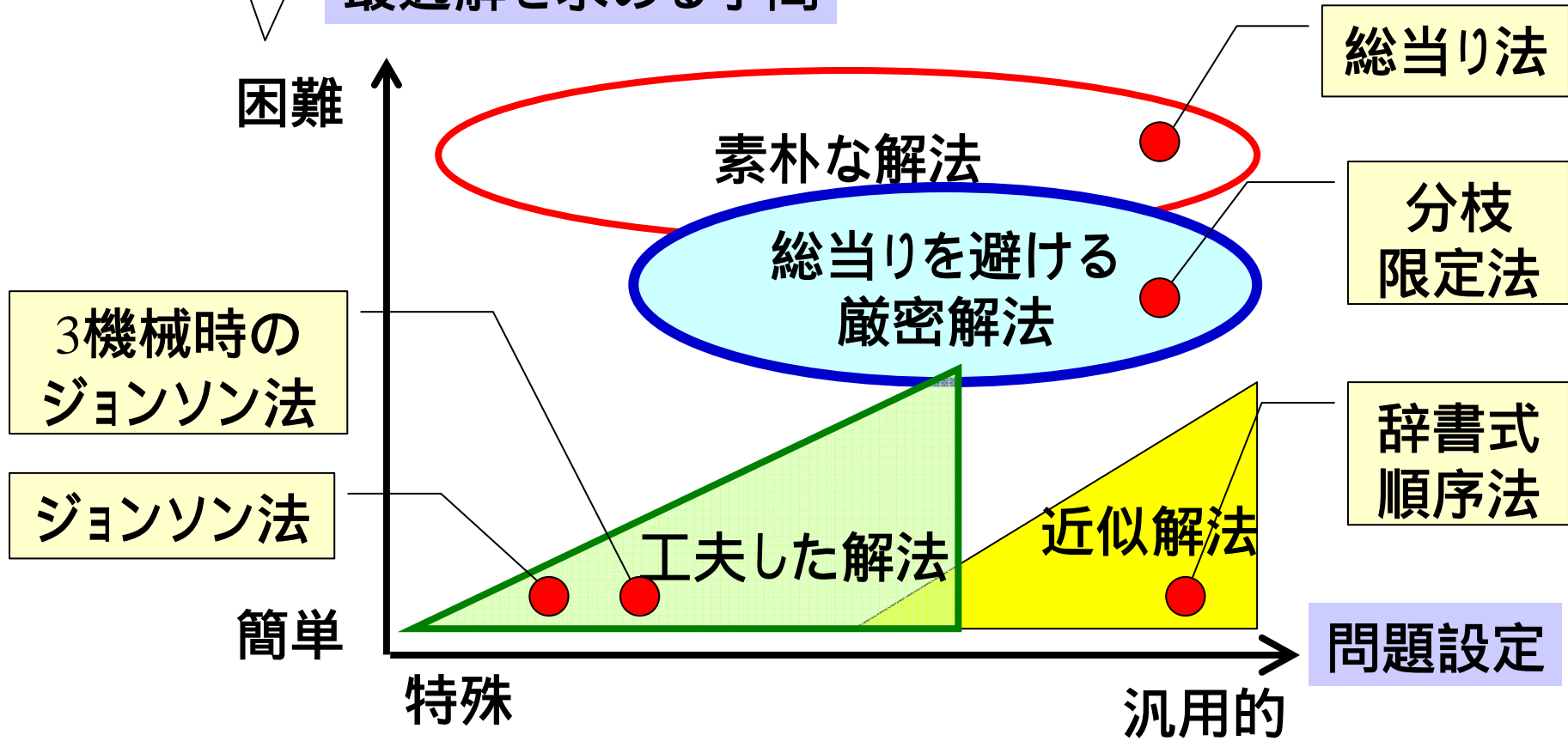


多くのスケジューリング問題が存在する

まとめ

問題サイズが
大きく影響

最適解を求める手間



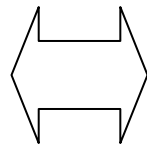
加工順序問題の場合

このあとは

- 手間のかかる 手間のかからない解法
 - 解法の比較, 評価の方法
- 問題ごとの難易度の見極め
 - 問題の難しさのランク付け
- (理論 問題解決)
 - 純粋理論が問題解決につながった例の紹介

寄り道：数詞

日本
4桁上がり



•米語, 仏語: 3桁上がり
•独語, (英語): 6桁上がり

- 一, 十, 百, 千
- 万, 億, 兆
- 京(けい) = 10^{16}
- 垓(がい), し, 穰(じょう), 溝(こう), 澗(かん), 正(せい), 載(さい), 極(ごく), 恒河沙(ごうがしゃ), 阿僧祇(あそうぎ), 那由他(なゆた), 不可思議(ふかしぎ)
- 無量大数(むりょうたいすう) = 10^{68}

(例)

ミリオン = 10^6 (共通)

ビリオン = 10^9 (米, 仏), 10^{12} (英, 独)

Google: 「googol(ゴーゴル) = 10^{100} 」が元